

●10月 第27回患者会

～「島津章先生から神経内分泌腫瘍について学ぼう」の集い～

☆日時：2018年10月13日(土) 13:00～16:30

☆場所：明覚寺会議室

☆講師：独立行政法人国立病院機構京都医療センター
臨床研究センター長 島津 章先生



☆参加者：35名

- (1) 交流会：自己紹介
- (2) 独立行政法人国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター長 島津 章先生のご講演
「神経内分泌腫瘍の不思議」(一部抜粋。詳細はHPの活動報告に講演内容があります)
 - ① 内分泌と外分泌の違い
膵臓を例にとると、分泌物(膵液)を腸に(つまり体の外に)出すのが外分泌で、一方、分泌物(ホルモン)を血液の中に放出するのが内分泌です。
 - ② 内分泌は血液中に分泌します。分泌されるホルモンはごく微量で効果がある元気の素。100種類以上あって、体のいろいろな調整作用を行います。
ホルモンが大事なのは体を守るしくみ、すなわち恒常性の維持(ホメオスタシス)を担っているからです。ホルモンと免疫と神経はいずれもこれを行います。反応する時間が異なります。つまり、神経はすぐに反応し、免疫はもう少し時間がかかる。さらに内分泌はもっと時間がかかります。また、神経と免疫と内分泌は互いに密接に関係しています。
- (3) 質疑応答と交流会
- (4) 懇親会：

【報告】

第27回しままサークル@関西の患者会を開催しました。

京都駅前の明覚寺というお寺の貸出会議室です。講師は、独立行政法人国立病院機構京都医療センターの臨床研究センター長、島津 章先生です。

とてもわかりやすく、パワーポイントも使って教えてくださいました。

